

第64回男子・第37回女子
全日本学生ホッケー選手権大会

第4日目

開催日時 11月2日(月) 会場 立命館ホリーズスタジアム 天候 雨

【各試合の結果・詳細】

9:30～ <女子準決勝>

立命館ホリーズスタジアム

東海学院大学 0 $\begin{pmatrix} 0 & - & 0 \\ 0 & - & 1 \end{pmatrix}$ 1 立命館大学

3	PC	3
14	シュート数	5

得点	立命館→51分山下		
戦評	<p>東海のセンターパスにより、前半戦が開始された。両チーム立ち上がりから両者お互いに攻め合う中、立命館がチャンスを得るが惜しくもゴールにはつながらない。その後も立命館は果敢に攻めるが中々相手側の守備に阻まれゴールにはならない。27分で、東海は連続攻撃でゴールを狙うが立命GK要石に阻まれ惜しくも得点にはならない。両者ともに無得点のまま前半戦を折り返す。</p> <p>後半戦に入って、両者一進一退の攻防が続く。51分、立命はPCを取得。#2山下がヒットシュートで、待望の先制点をあげる。追いつきたい東海は55分、PCを獲得するも得点にはつながらない。その後も東海は怒涛の猛攻を見せるが、立命館の堅い守備に阻まれ得点につながらない。そして試合はこのまま1-0で立命館大学の勝利となり、立命館は決勝進出を決めた。</p>		
テクニカルオフィサー	中野典子	アンパイア	Sunny Wang
ジャッジ	板橋秋穂・中坪真希		野澤達

11:00～ <女子準決勝>

立命館ホリーズスタジアム

山梨学院大学 2 $\begin{pmatrix} 1 & - & 0 \\ 1 & - & 0 \end{pmatrix}$ 0 天理大学

7	PC	2
12	シュート数	13

得点	山梨学院→27分藤井、37分藤井		
戦評	<p>冷たい雨の中、山梨のセンターパスから前半戦が開始された。開始直後から両チーム果敢にゴールを狙うも、得点には至らず、一進一退の攻防が続く。20分山梨はPCを獲得。エース#20藤井のフリックシュートは惜しくもバーに当たり得点とはならない。続く27分にまたしても山梨がPCを獲得。#20藤井が狙いすまして綺麗なフリックシュートを決め、1-0と先制する。勢いに乗る山梨は攻め続けるも、天理が守り切り前半が終了する。</p> <p>後半開始早々に山梨はPCから、またも#20藤井のシュートで追加点を得る。天理も負けじと攻撃を仕掛け続け、45分に連続でPCを得る。しかしながら、ゴールマウスをとらえきれない。65分、天理は再びPCを獲得するが、得点のチャンスを活かせない。その後も粘り強く攻め続けた天理であったが山梨が逃げ切り2-0で決勝進出。山梨は、明日4連覇に挑む。</p>		
テクニカルオフィサー	苺谷和代	アンパイア	藤原真由美
ジャッジ	一谷徹・松宮弘		戸塚洋介

12:30～ <男子準決勝>

立命館ホリーズスタジアム

立命館大学 0 $\begin{pmatrix} 0 & - & 1 \\ 0 & - & 2 \end{pmatrix}$ 3 山梨学院大学

4	PC	1
5	シュート数	4

得点	山梨学院→30分小川、64分伊藤、67分山崎		
戦評	<p>立命センターパスにより前半戦が開始された。両者ともに一進一退の激しい攻防が繰り広げられる。立命がゴール目前まで責め立てるが、山梨の堅い守備に阻まれる。30分、山梨#29小川がゴール前でボールを押し込み待望の先制点を決める。</p> <p>後半戦開始直後の37分、立命がPCを獲得するも得点とはならない。39分、40分にも連続で立命はPCを獲得し、山梨に迫るが山梨の堅い守備に阻まれる。その後も、互いに巧みなドリブルとパスワークで山梨陣内へ攻め込むが得点には結びつかない。逃げ切りたい、山梨は、64分、PCを獲得。#15伊藤がフリックシュートを決め2-0とする。さらに67分にも山梨は#6山崎が綺麗にダメ押しのヒットシュートを決め、3-0と引き離す。追いつがる立命は、68分にPCを獲得するも得点にはつながらず、このまま試合は終了。山梨が完勝で、4年ぶり14度目の決勝進出を果たした。</p>		
テクニカルオフィサー	中野典子	アンパイア	成田健一
ジャッジ	中坪真希・板橋秋穂		西山宏明

14:00～ <男子準決勝>

立命館ホリーズスタジアム

明治大学 1 $\begin{pmatrix} 0 & - & 1 \\ 1 & - & 0 \end{pmatrix}$ 1 天理大学

2	SO	1
2	PC	4
6	シュート数	15

得点	明治→42分谷光		
	天理→21分福田		
戦評	<p>明治のセンターパスにより前半が開始された。激しい攻防が繰り広げられる中で、天理は、21分天理#17福田がタッチシュートを決め、先制点をあげる。互いに巧みなドリブルとパスワークにより相手陣内へ攻め込むものの、明治が堅い守りを見せ、0-1で前半を終える。</p> <p>後半戦が開始され、互いに一歩も譲らない一進一退の攻防が続く中、42分明治はPCを獲得し#10谷光がフリックシュートを決め、同点とする。55分、明治はさらにPCを獲得し#10谷光がフリックシュートを放つも、天理GK#1吉川の好セーブにより得点とはならない。その後両チームとも一歩も譲らず後半戦が終了し、1-1で試合はSO戦へともつれ込んだ。</p> <p>SO戦、1人目は互いにゴールを決めるが、その後は互いに4人が得点できず、ゴールデンゴール方式のSO戦となる。6番目の先攻、明治#9川村はプッシュシュートを決め、2-1とする。後攻の天理は、#6落合がゴールマウスをとらえ切れず、明治が勝利。明治は、27年ぶり23度目の決勝進出を果たした。</p>		
テクニカルオフィサー	一谷徹	アンパイア	渡邊道彦
ジャッジ	松宮弘・苅谷和代		木下英貴